

第2回 県立淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地あり方検討会

1 日時 令和7年8月26日（火）10:00～12:00

2 場所 淡路ハイウェイオアシス やまもも

3 出席者

（1）委員

高田知紀委員（会長）、澤田佳宏委員、米山正幸委員、山本正彦委員、小南廣之委員、関美恵子委員、坂田隆二委員

（2）オブザーバー

淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理事務所、ハイウェイオアシス管理事務所、洲本土木事務所

（3）事務局

公園緑地課

4 内容・議題

（1）開会

（2）協議事項

- ① 第1回あり方検討会における委員意見
- ② あわじ石の寝屋緑地あり方検討の進め方について
- ③ 淡路島公園の強みや課題について

5 議事要旨

（1）開会

- 事務局より、当検討会を公開で実施し、議事録を県HPで公開することを説明。
- 事務局より、委員定数8名のうち7名出席で定足数を満たしており、会議が成立していることを報告。

（2）協議事項

① 第1回あり方検討会における委員意見

事務局より【資料1】に基づき説明。

発言者	発言内容
澤田委員	ゾーニング図の作成に関して、資料では大分類の自然環境保全に入っているが、活性化にも関わってくる課題ではないか。
高田会長	ゾーニング図は公園全体の課題として位置付けるという認識だと思う。

② あわじ石の寝屋緑地あり方検討の進め方について

事務局より【資料2】に基づき説明。

発言者	発言内容
高田会長	管理運営協議会では、あり方検討の議論と日常の管理運営に関することを協議することが想定されるが、議論の回数が2回で問題ないか。
事務局	2回開催する管理運営協議会で議論を収束したいと考えているが、議論が収束しなければ、来年度も継続して議論する。

③ 淡路島公園の強みや課題について

事務局より【資料3】に基づき説明。

発言者	発言内容
高田会長	<p>淡路島公園の強みと課題を事前に委員の皆さんから意見を頂いたが、本日の検討会では、頂いた意見の背景や思いなどを対話しながら掘り下げていきたいと思う。</p> <p>まずは、資料6ページからの公園の魅力として、豊かな自然環境があるところ、ニジゲンノモリにより集客力があるところが委員の皆さんから出た意見である。豊かな自然環境が残りつつ、かつ集客力がある公園というところが大きな特徴であり、魅力となっている。その他には、自然体験やイベント、さらに夜間も使えるなど、多様な使い方ができる点が魅力である。他に、アクセスの良さや駐車場が多くあるところ、管理運営体制についても、既に官民連携の体制ができているところが魅力として挙げられている。自然環境が豊かで集客力があり、多様な利用ができ、さらにアクセスが良く、その公園を官民連携で、実現できているというところが大きな強み。この強みをどのように生かしていくのかについて、これから議論し考える必要がある。</p> <p>一方で、課題もたくさんある。資料8ページ以降を見ると、環境についての課題として、自然豊かな公園である一方で、景観形成として疑問を抱くような場所があり、或いは音の環境として、騒音が発生しているというところがあるとの意見を頂いた。利用についても、集客力があり自然豊かな場所であるが、アトラクション的な利用と自然的な利用を共存させる方法を考える必要があるとの意見が挙げられている。さらに、DEI対応（ダイバーシティエクイティーインクルージョン）で、いろいろな立場の人が利用できるような公園を作る必要があるが、その辺りの対応ができていないのではないかと意見や、アクセスについても園内の移動がやや不便だという意見や車利用以外の人のアクセスというのも考えないといけないなどの意見が出た。管理運営体制についても、官民連携の体制にはなっているが、それが十分ではないという意見や救護・災害・防犯安全対策、さらに最近の夏の猛暑対策をしっかりと充実させていく必要があるなどの意見を頂いた。また、多く出た意見として、情報発信が挙げられる。これは2つの意味があり、園内の情報表記が不十分であるということ、外向けにPRや広報があまりなされていないことで</p>

発言者	発言内容
	<p>ある。このあたりの情報発信をどのように行うかも考えないといけない。そのほか、施設の老朽化や駐車場の整備、ネット環境の整備、有料と無料の場所が入り組んでいること、イベント利用を希望する団体の利用申請が分かりづらい状況があるなどが挙げられている。</p> <p>6 ページで、澤田委員から、植物観察の重要な地点で多くの野草が見られるという意見を頂いている。公園の自然資源が損なわれていないか、事前のアセス調査だけでなく、開園後のモニタリングは何らかの形で必要ではないかという意見を頂いているが、この辺りの意図と背景の説明をお願いする。</p>
澤田委員	<p>ナイトウォークの開園時は、この公園の自然環境をよく知る人たちから、ここにはこういう植物があるので、それに対しての配慮が欲しいなどの意見が出たことで、ニジゲンノモリがそれに応えて、いろいろな配慮をしてもらったが、そのあと、アトラクションが増え、或いはリニューアルされていくときに、要望やそれに対する対応が、はっきりと見えなくなっているところが気になっている。当初、環境調査や生物調査を、ニジゲンノモリの開園前から最初の1年ぐらいまではモニタリングをしていたはずで、何年かに1回はモニタリングを行う必要がある。</p>
高田会長	<p>坂田委員はモニタリングを実施する上での課題などをお持ちかと思うが、これに対する意見はないか。</p>
坂田委員	<p>最初に、地域環境計画という会社と澤田先生にも協力いただいてモニタリングを行った。どの部分まで行うのかの議論はあり、例えば、定期的に実施するなどの議論もあったかと思う。多大な予算が必要なので、どこが主体で実施するのかというところで、最初はニジゲンノモリで実施したが、調査に対して予算を出し続けることもできない。県の予算なのか、或いは、指定管理の費用の中にモニタリングを見据えた形で予算化されることができればと思う。お金だけの問題ではないと思う。</p> <p>過去に園芸学校の生徒にも協力いただいて実施したと記憶しているが、定期的に行われているかというところではない。</p>
高田委員	<p>ここでの議論として、定期的なモニタリングが必要で、それを行うためにはどういう方法がありうるのかというところは、今後具体的の方策を考えていくときに管理運営協議会などで検討しないといけない。</p>
澤田委員	<p>坂田委員の意見はもっともで、モニタリングを誰がお金を出して実施するのかという問題がある。通常、環境アセスメントであれば、開発主体がお金を出して実施する。ただこの場合は、環境アセスメントにかかるほどの規模ではない。そういう場合には、開発者が自主的に実施するという場合も考えられる。一方で県立の公園なので、県の公園を県の予算で調査するというのも本当は必要。あり方検討の中で、空間的なゾーニングの話もあると思うが、どの仕事をどこが持つのか、設置者なのか指定管理者なのか、或いはニジゲンノモリなのかというのも、ある程度見えるようにしていかなければいけない。</p>

発言者	発言内容
関委員	<p>お話を聞く限り、ナイトウォークの開園時は、そのエリアに関して話し合いがしっかりととなされていたと思うが、以降、新しいアトラクションが開設される時は、あまり地域住民に対して情報共有がなされていないように思う。例えば、現在実施している鬼滅の刃のナイトウォーク実施場所にある桜の木が伐採されていること(※)などがあったので、そのあたりはお知らせしてほしい。</p> <p>(※会議後、(株)ニジゲンノモリが管理事務所との相談を経て、桜を伐採したことを確認)</p>
山本委員	<p>環境調査は急務である。豊かな自然環境は淡路島公園の魅力であり、自然環境の維持というのは一番大事である。予算の問題も確かにあるが、県がリードし、問題を解決し、しっかり環境調査を実施してもらいたい。</p>
高田会長	<p>議論の中で、モニタリングの重要性が共有され、誰が、いつ、どういう方法で実施するのかをこのあり方検討会で今後議論する必要がある。その辺り現状の把握や、環境・利用の変化は、県としてどういう考え方で、或いはどういう方法で実施しようとしているのか、考えがあれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>他の県立都市公園もそうだが、環境調査が非常に重要だという認識がある。ただ、予算の問題があり、なかなか実施できない状態である。一つの考えとして、市民の方や園芸学校に調査をお願いするなど、今後は予算をかけて実施する調査ではなく、少しエリアを絞った調査を実施できればと考えている。</p>
澤田委員	<p>最初のモニタリングは公園全体の調査だったので、予算が必要であった。次は、その調査で見つかった重要な種類が、今も残っているかなど、ターゲットを絞った調査ができれば、経費的には大幅に削減でき、調査の実施に向け、話が進むと思う。また、市民調査を実施できればとのことだが、対象者が絞れた段階からの調査であれば、市民調査でも精度的にはあまり問題ない。ただ、市民調査も無償ではなく、経費は必要である。</p>
小南委員	<p>昭和池の周りに飛来する水鳥やアジサイの谷周辺のヒメボタルはぜひ守っていききたい。ある程度エリアや重点を絞って、保全する場所を決める必要がある。今すぐ実現できるような計画で、自然環境を保護していくことが必要。</p>
高田会長	<p>昭和池の水鳥を定期的にモニタリングすることやアジサイなどの植物など対象を絞り込むことで、効率的に、予算も膨れ上がらずに実施できる点や市民や学生とも連携しながらモニタリングをしていけるのではないかとこの点は、重要なポイントだと思う。</p> <p>6ページの占用のあり方について十分把握できていないので、そのあたりの情報を現地も見ながら確認したほうがいいのではないかと意見があるが、これについてはいかがか。</p>

発言者	発言内容
澤田委員	従来利用していた動線を確保してほしいという思いがあり、記載した。昭和池の周りの園路で、現在園路の一部が封鎖され通れない状況なので、人が通れるよう動線を確保してほしい。公園内はニジゲンノモリが占有する場所とそうでない場所があるが、公園は公共の場所であるので、無料で利用する人が通れる動線は確保できるようにという配慮が必要。
小南委員	大事な生き物を保全するために、公園内で実施する野鳥観察会などのイベントで集めた生態系に関する資料や報告をニジゲンノモリにも共有した方が良い。
高田会長	野鳥観察会などの結果を公園に関わる人全体で共有することは、モニタリング調査の役割を果たせる部分がある。ただ、その時にニジゲンノモリにその情報を直接提供するのがいいのか、公園に関わる人全体が集まるような場で報告するのかは議論しないといけない。
山本委員	淡路島公園の広大な自然の魅力を残していくことが必要である。
高田会長	豊かな自然を残していくべきであることは共通認識である。ただ、モニタリング1つとっても予算がない中で、どのような方法で生態系を保全していくのかを考えないといけない。モニタリング結果をどういう場で共有するのか、自然環境保全のための具体的な方策や仕組みを議論する必要がある。
澤田委員	モニタリング結果の共有に関しては、公園関係者で共有するにとどまらず、全体的な情報発信に結び付けるべきである。例えば、この公園では、今の季節、この場所でこんな生き物が見られるなど、そういった情報も公園の資源である。現状、あまりこういった情報発信ができていない。
高田会長	情報公開戦略はすごく重要で、魅力がたくさんあるのにそれが外に伝わりきれていないところが淡路島公園の重要な課題。情報の集約と発信をどのようにしていくかの戦略もあり方検討で体制を考えていかないといけない。
坂田委員	あり方検討会で方向性が決まりその実現に向け、予算が必要となった場合、予算を増枠することができるのか。
事務局	基本的には増やすことはできない。ただ、指定管理の公募の際、重点的に取り組むべき項目については指定できる。あり方検討会では、予算の比率を考えていくイメージである。
坂田委員	予算の確保というところで、例えば駐車場の有料化やイベントの有料化の可能性は考えられるのか。
事務局	可能性としては考えられる。収益事業として多いのは、駐車場料金の有料化。その他、アミューズメント系を提案してくるところもある。公園によって様々な収益事業の提案があるような状況である。
高田会長	淡路島公園の場合、ニジゲンノモリという集客力のある企業が参画している。上手に活用しつつ、自然環境の保全という公園本来の価値に連

発言者	発言内容
	動させていくための仕組みをデザインしないといけない。
坂田委員	先ほどの昭和池周辺の園路に関して、イベントがあるときなどは封鎖している柵を開けること、さらに野鳥が見えるように壁を作り、のぞき穴を指導のもと作成した。
高田会長	それは作成するときに、アドバイザーに聞いたのか。それとも協議会の中で決めたのか。新しいアトラクションを作るときに、専門的な知見のもとに、アドバイスしたり情報共有したり、議論する場があれば良い。
澤田委員	今そういったことは管理運営協議会の中で協議している。あり方検討会では、ゾーニングのことを含め、大まかな指針を示してもらいたい。 先ほどの動線の話だが、動線はいつでもだれもが通れるようにしないといけないと思う。ただ、過去の管理運営協議会の中で、そのあたりの落としどころを見つけられず、今の状況となっていると考えられる。
高田会長	あり方検討会では、まず淡路島公園全体の理念を決め、それに基づく大まかなゾーニングがあり、そのゾーニングでは対応しきれないところは個別に協議する必要があるので、その個別の協議の場をどうデザインしていくのかの大きく3つのことを決める必要がある。
山本委員	年に1、2回しかない管理運営協議会で、個別協議の場を設けることは難しい。また、現状、ニジゲンノモリと現場を管理する管理事務所との連携が不足しているように感じる。
高田会長	管理運営協議会だけで、協議することが難しいのであれば、新しい対話の場を定期的に設ける必要があるのかをあり方検討会で議論し、そのコミュニケーションの場をどう作るのかを議論していかないといけない。新しいプロジェクトをするときに相談したり報告したり、或いは一緒にデザインを考えていけるような場を作る必要がある。
坂田委員	先ほどの山本委員の意見だが、管理事務所や公園緑地課とは常に相談しながら新しいイベントを実施している。
高田会長	公園を利用している人たち同士で情報共有するとすると、ある人は聞いているが、ある人は聞いてないということになるので、やはり一堂に会して、情報共有をし、相談ができるようなオープンな場を作ることがいいのではないか。
米山委員	話は少し戻るが、ニジゲンノモリのイベントの一つとして、ヒメボタルの観察会を実施しているのであれば、その情報をイベントに来た人がSNSなどで発信してくれれば、淡路島公園の魅力が上がる。また、公園に訪れた人に公園の自然環境を知ってもらうために、自然環境などの情報が記載された看板などを設置すれば良いのではないか。
高田会長	外に向けての情報発信と、公園に来た人が公園をより楽しむ意味での園内での情報発信が重要で、そのあたりの発信の仕組みをどうするのかも議論のポイントになる。
小南委員	淡路島公園を利用する人たちの目的に合わせて、公園のあり方を考えてみるのはどうだろうか。

発言者	発言内容
高田会長	淡路島公園の利用実態は把握されているのか。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務所	アンケート調査を実施しており、管理運営協議会にも報告している。
高田会長	今後のあり方検討会の中でも、アンケート結果を情報共有し、それをもとに強みや課題を出していけたらと思う。 その他の意見として、DEIの観点での対応を坂田委員から意見を頂いているが、この辺りの現状も共有してもらえたら。
坂田委員	現状、問い合わせで授乳室があるかどうかを聞かれることが多い。そのほかは、車椅子対応がある。車椅子対応は管理事務所が行っている。ただ公園内はアップダウンや階段も多くあり、あり方検討会の中でどこまで対応すべきか議論の余地があるかと思う。
高田会長	園内移動にも関わることである。アトラクション利用する人だけでなく自然観察する人の中でも、いろいろな条件の人が観察できるとより公園の価値が高まっていく。
坂田委員	園内移動の例として、現在、土日のみクレヨンしんちゃんエリアに向かうカートが運行している。ニジゲンノモリ利用者だけでなく、一般利用者も無料で乗車することができる。また、猛暑対策におけるミスト扇風機の設置など弊社が対応できる部分は対応しているが、現状の公園が、現代の公園にフィットしているのか議論の余地があるかと思う。
高田会長	夏は暑さの影響で、公園に人がいない状況が生まれているが、何かあったときの対策はしっかりと考えておく必要がある。
小南委員	公園の収益を上げるために、例えば、駐車場を有料化するなどの考えがあると思うが、公的な公園なので、無料で駐車できるようにするべき。
高田会長	公園管理のためにお金が必要だから駐車場を有料化し、その資金で公園管理することが良いのか、それとも、とにかく公園に来てもらうことが大事だからハードルを上げずに、駐車場は無料のままにするのが良いのか、その場合は、限られた予算の中でやりくりする必要がある。大きく2つの分岐点に来ている。今の提案だと、来たい人になるべく来られるようハードルを下げ、その代わり、駐車場収益は見込めないのに、公園関係者で工夫しながら運営する必要があると捉えられる。
坂田委員	パソナグループでは、地元の方は無料で駐車場に止めることができるカードを発行し、それ以外の方は料金を支払ってもらっている。その仕組みを公園でも作り、公園側に収益が入れば良い。
山本委員	駐車場は無料のままで進めてほしい。
高田会長	島内の方は無料で、島外の人を有料にすることは仕組み上可能か。
事務局	県立都市公園なので、淡路島内在住だから無料にするという区別はできない。ただ、よくある手法として、一般の公園利用者の利用時間を想定して、3時間は無料にし、それ以上は有料にするなどの2段階方式がある。住んでいるエリアごとに分けて料金差別化することは、県立都市公園には適さないと考えられる。

発言者	発言内容
澤田委員	駐車場の有料化に関しては、時期や曜日を限定することはあり。普段から公園を利用する人は常時有料化にすると大変だと思われるので、先ほどの3時間まで無料にすることや時期、曜日で有料化するとお金も生み出せ、公益性を確保する観点では理想。
高田会長	<p>具体的な課題であるが、公園全体の管理費に関わってくる本質的な問題だと思うので、情報を整理して、やり方を考える必要がある。</p> <p>今後ゾーニング図を作成するにあたって、再度、第1回目のゾーニング図に自然利用のエリア或いはニジゲンノモリがアトラクション利用するエリアのポテンシャルを情報として地図に落とし込んで、その上でエリアごとの考え方を整理する必要がある。</p>
米山委員	ニジゲンノモリのおかげで淡路島公園を知ってもらうことができているので、公園に来てからの楽しみ方をもっとPRすべき。
山本委員	アトラクション施設の音声や光などを考慮したゾーニング図の作成も必要。
高田会長	ゾーニングも空間的なものや、日中や夜間で公園の使い方が変わるので、時期や時間帯で配慮すべき点を考えるなど、時間のゾーニングも大事になってくる。
澤田委員	課題でも挙げられているが、公園の入り口にイノシシ柵があるなど、公園の入り口の景観としてはよろしくない。例えば、公園内の看板や入口のエントランスなどの整備を行う場合、設置者が行うものなのか。
事務局	基本的には設置者が行うものである。以前から話は出ているが、F駐車場の入り口はニジゲンノモリのメインの入り口にもなっているので、お互い連携しながら整備できればと考えている。
関委員	本日出た意見の中で、昭和池周辺の園路が通行止めとなっていることが気になった。誰でも通れるようにできればと思う。
高田会長	<p>本日の会議では、モニタリングの重要性や集約された情報をどのように情報共有をするのか、また、新しいアトラクション或いは自然観察を実施するときに、意見を出し合える場をどういう形で作っていくのかがポイントとしてあった。その他には、園内移動の充実化などのDEI対応や外向けと公園に訪れてからの広報戦略、財源を確保する方法としての駐車場の有料化などが挙げられた。今後、県や指定管理者、ニジゲンノモリ、市民、近隣の学校など公園に関わるさまざまなプレイヤーの役割分担をあり方検討の議論の中で整理する必要がある。</p> <p>本日の協議はここまでとする。次回の協議内容は事務局と相談し、決定する。</p>

以上